

■巻頭言 「勘と経験と度胸」から「エビデンス」へ

筑波大学特別支援教育研究センター 柘植 雅義

「エビデンスに基づく教育実践」とか「エビデンスに基づく教育政策」という話題になると、顔色を変えて声を荒げて「そんなことは無理だ!」「教育は数値では測れない!」「教育成果を見るには何十年もかかる!」「過去のエビデンスを集めても何も生まれない!」という声を聞くことがまだあり、残念だ。しかし、そのような主張には「エビデンス」はなく、正に「勘と経験と度胸」によるものだ。



英国や米国では少なくとも 1990 年代以降、エビデンスに基づく教育に関する取り組みが始まった(柘植・葉養・加治佐, 2013)が、日本は大きく遅れをとった。しかし、ここに来て大きな進展が出始めた。日本の障害者政策と教育政策の策定に深く関わる委員会での次期計画の作成プロセスに、その兆候がはっきり見られるからだ(柘植, 2017; 柘植, 2018)。私も委員として参加している内閣府の障害者政策委員会と文部科学省の中教審の教育振興基本計画部会が、いずれも 2018~2022 年の 5 か年計画の策定作業の段階で、1 年毎や 5 年後にやってくるだろう評価の在り方も含めて設計するという。その基本的な概念がロジックモデルである。簡単に言うと、PDCA サイクルのプロセスで、やがて来るであろう評価(c)のことも考えながら計画(P)を作ろうという。当たり前といえば当たり前のことだが、従来はそうではなかったので、いよいよ評価をする段階になって、さて困ってしまった、ということが多々あったことだろう。

先日、人間系コロキウムで、2001 年から現在までの発達障害に係る学術研究の動向について話題提供(柘植・末吉・伊藤・長山, 2018)をしたら、直後の質疑応答と共に、参加者アンケートに学術研究の整理整頓(レビュー)が教育や政策に非常に重要だということが良く分かったというようなコメントがあった。

滑走路での長すぎる助走を終えて、いよいよ「勘と経験と度胸」から離陸し、「エビデンス」の世界への旅が始まった。

〈文献〉

柘植雅義・葉養正明・加治佐哲也監訳(2013) エビデンスに基づく教育政策. 勁草書房. (Dvid Bridges, Paul Smeyers and Richard Smith (2009) Evidence-Based Education Policy: What Evidence? What Basis? Whose Policy?.

WILEY-BACKWELL, UK)

柘植雅義(2017) 特別支援教育と“計画”. 時事通信: 内外教育(2017年7月21日号)巻頭言, 1.

柘植雅義(2018) 特別支援教育と“評価”. 時事通信: 内外教育(2018年1月5日号)巻頭言, 1.

柘植雅義・末吉彩香・伊藤由美・長山慎太郎(2018) 2001~2016 年における発達障害研究から探る特別支援教育の到達点と展望. 筑波大学人間系第 40 回コロキウム(2018年1月10日).

■JICA 課題別研修報告

筑波大学特別支援教育研究センター 氣仙有実子

11月20日（月）～12月15日（金）の4週間にわたり、本センターではJICA課題別研修「障がいのある子どもための授業づくり」を行いました。研修にはアフガニスタン、ケニア、フィジー、レソト、モンゴル、ミャンマー、パラオ、サモア、ソロモン、ベトナムの10カ国12名の特別支援教育・インクルーシブ教育の関係者が参加しました。

研修では附属特別支援学校5校および茨城県守谷市立大井沢小学校を訪問し、各学校における特別支援教育、インクルーシブ教育の実践を参観しました。

附属聴覚特別支援学校では小学部4年算数の授業を参観し、その後の授業研究会では参観した授業について意見や感想を活発に出し合いました。研修員からは授業研究会に関する実施の手順などがわかり、自国でも実施したいとの感想もありました。附属久里浜特別支援学校と附属視覚特別支援学校では寄宿舎を見学しました。それぞれの学校で寄宿舎が果たす



役割や子どもたちの生活について熱心に説明を聞き、子どもの実態に応じた寄宿舎のあり方や生活指導の大切さについて共有することができました。また、附属桐が丘特別支援学校や附属大塚特別支援学校では、短い時間ではありましたが子どもたちと交流し、子どもたちが一生懸命英語で話して好きなものを紹介したり、一緒にダンスをしたりと笑顔あふれる時間を過ごしました。

研修内容としては学校参観の他、講義や演習などがあり、多角的に障害のある子どものための授業づくりについて学びました。特に教材に対する研修員の関心は高く、本センターの教材・指導法データベース（英語版）を使い、それぞれの興味関心にあわせて様々な教材を閲覧しました。



このデータベースに上げられている教材は、身近な材料で手軽に作成できるものが多く、障害のある子どものための教材は高価で入手できないという課題に対して、たくさんのヒントを得られたという感想も多くありました。また、各附属で使っている教材の実物をいくつか持ち寄り、実際に触れたりもしました。それぞれの教材に応じたねらいと使い方を体験し、そこから自国の教育現場での活用について、熱心に思い描いていたようでした。

世界の広い地域から集まる研修員たちの国の事情はそれぞれに異なりますが、障害のある子どものための教育を親身になって考える志はみんな同じだと感じました。国の事情は違っても私たちの日ごろの実践が、世界各地で障害のある子どものための教育に少しでも還元されていくことを願っています。



■ 9月センター主催セミナー報告

9月30日（土）にセンター主催セミナーが筑波大学東京キャンパス文京校舎で開催されました。「シリーズ特別支援教育の伸展（8）―指導法の豊かさを願って：先輩からのエールⅡ―」と題された本セミナーは、長年筑波大学附属特別支援学校で教鞭をとってこられた先生にご講演いただく2回目のセミナーとなります。

今回は3人の先生をお招きし、これまでの実践に基づくお考えなどをお話しいただきました。附属盲学校の卒業生でもある高村明良先生は、これまでのご自身のご経歴をもとに、数学を担当するお立場から視覚障害教育において大切なことをお話してくださいました。瀬戸口裕二先生は、現在の教育的支援の先駆けとなるような様々な取り組みに着手してこられ、センターにも現場の先生方にも熱いエールを送ってくださいました。長田実先生は、これまでの実践を振り返りながら、教師間の連携、チーム力の大切さについてご教示くださいました。

参加いただいた先生からは、「3人の先生方が大切してこられたことが大変参考になった」「障害種は違うが重なる部分が多くあり、勉強になった」といった感想を多くいただき、障害の領域を超え、多くのことを学ぶ機会となりました。



高村 明良 先生



瀬戸口 裕二 先生



長田 実 先生

■ 研修生日記

北海道星置養護学校ほしみ高等学園

吉田 史人

4月から現職教員研修生として筑波大学特別支援教育研究センターにお世話になりましたが、残りわずかな期間となりました。

これまでのセンターの演習や講義、筑波大学附属特別支援学校5校での見学や演習において、多くの先生方にご指導いただき、知見を広め実践力を高める機会をいただきながら研鑽を積んでまいりました。質の高い演習や講義を聞いたり体験したりして、自身の勉強不足を感じるときもありました。しかし、学び直せるチャンスをいただけたことに感謝しながら、残りの研修期間も充実した日々を過ごしていきたいと思います。

指導教員の柘植雅義先生には、研究の方法、研究論文の書き方、調査の方法、効果的なプレゼンテーションの方法など研究の基礎から丁寧にご指導いただき深く感謝申し上げます。また、筑波大学特別支援教育研究センターを運営する先生方からの講義や演習において専門分野についてご教示いただけたことは、特別支援教育の専門性を高める機会となりました。深く感謝申し上げます。

今後の研修期間においては、研究論文のまとめと最終報告会に向けた仕上げるの時期になります。指導教員の柘植先生や特別支援教育研究センターの先生方と研究論文を仕上げていくとともに、今年度の学びを北海道に還元できるようにさらなる研鑽に努めてまいりたいと思います。



■附属ニュース（附属大塚特別支援学校）

中学部 深津 達也

本校では、知的障害がある生徒たちが、柔道を安全に実施できることを目指し、アダプテッドスポーツ「タグ柔道」を開発した。「相手の腰についている2本のタグを先にとったほうが勝ち」というわかりやすいルールを設定したことで、生徒全員が主体的に学習に取り組んでいる。昨年度より、「嘉納治五郎」先生が創設された「講道館」にて、タグ柔道を行う機会を得、「相手に応じて力一杯身体を動かす」ことに加え、柔道が大切にしている「相手への敬意」を、柔道の学習を通して学んでいる。1月には、旭出学園（特別支援学校）とタグ柔道を通じた交流を行う予定である。スポーツを通して、人と人との輪が広がっていくことを目指していく。



■附属ニュース（附属桐が丘特別支援学校）



平成29年11月5日～8日、高等部生徒2名が引率教員3名とともに台湾の特別支援学校との交流会に参加しました。台湾では、国立特別支援学校2校（国立南投特殊教育支援学校、国立和美実験学校）を訪問し、学校施設の見学や高等部生徒どうしの交流会などを行いました。

参加した生徒たちは、交流会で、準備していった英語と中国語を使ってプレゼンテーションをしたり、台湾の高校生たちと直接コミュニケーションしたりしたことが印象深かったようです。また、交流会以外にも中正記念堂の見学や公共交通機関の利用、屋台での食事など台湾の文化にもたくさん触れ、充実した4日間を過ごしました。



■3月セミナーのご案内

今回のセンター主催セミナーは、大学と附属特別支援学校の連携を視野に、特別支援教育の今後について考えたいと思っています。是非ご参加ください。

1. 日時 3月26日（月） 13:00～16:30
2. 場所 東京キャンパス文京校舎 134講義室
3. テーマ 特別支援教育の今後を語る
4. 申込み E-mail: snerc@human.tsukuba.ac.jp, Tel: 03(3942)6923

■附属行事予定（1月～3月）

- | | |
|-----------------|-------------------------|
| 2月 1日（木）～ 2日（金） | 桐が丘・研究協議会 |
| 2月 9日（金） | 大塚・研究協議会 |
| 2月15日（木）～16日（金） | 視覚・公開講座 |
| 2月17日（土） | 視覚・研究協議会 |
| 3月 3日（土） | 障害科学学会 |
| 3月 8日（木） | センター現職教員研修生・研修成果報告会、修了式 |

